小学校教師の体育授業に対するコミットメントを促す支援の検討

令和元年度

四方田健二

筑波大学

本研究は、小学校教師の体育授業へのコミットメントに影響を与える要因およびその変 容過程を明らかにし、教師に対する支援について検討することを目的とした.

序章では、本研究の背景となる問題の提示および目的の設定を行った. 生涯にわたり自律的に学び続ける教師が求められる一方で、小学校教師が体育科の価値を認識していない傾向や授業改善の取り組みが不十分であることが指摘されてきた. そのため、小学校教師が体育科の価値を重視し授業改善に取り込もうとするコミットメントを高めていくには、その変容過程を明らかにし、具体的な支援の方略を検討していく必要がある. 本研究では、上記のような問題意識に立ち、小学校教師の体育授業へのコミットメントに影響を与える要因および、特に校内授業研究を通したコミットメントの変容の過程を明らかにすることを目的とした.

第1章では、教師の成長およびコミットメントに関する先行研究を整理し、成果と課題を検討した。教師の成長やコミットメントに影響を与える要因として、同僚教師や管理職、研修などの環境的要因と教師の知識や信念、効力感などの個人的要因が指摘されてきた。なかでも、学校内の教師の協働的な支援の重要性が特に重視されてきた。この点に関して、我が国の学校現場では伝統的に校内授業研究による協働的な授業づくりが行われてきた。しかし、我が国の授業研究が形骸化しつつあることや理論的な研究が不十分であることが課題とされている。また、我が国の体育科教師教育分野の研究方法論が未整理であることを踏まえ、国際学術誌における当該分野の研究方法の動向を整理し、次章の研究枠組みの設定の参考とした。

第2章では、理論的枠組みの整理と研究課題および研究枠組みの設定を行った。理論的枠組みでは、コミットメントに加え学習の動機づけや成人学習理論などの教師の成長や発達に関連する概念の理論を整理した。これらの理論的枠組みおよび第1章の先行研究の整理をもとに、本研究では次の3つの研究課題を設定した。研究課題1)小学校教師の体育授業に対するコミットメントを促す要因およびそれらの関係を明らかにする、研究課題2)小学校教師の体育授業に対するコミットメントを阻害する要因およびそれらの関係を明らかに

する,研究課題 3) 体育科の校内授業研究を通した小学校教師の体育授業に対するコミットメントの変容過程及びその過程に関連する要因を明らかにする. これらの研究課題に対して,目的的サンプリングにより課題に関する情報を豊富に得られる教師および小学校を選定し,インタビューおよび参与観察による質的データを GTA を基にする分析方法により探索的に分析することとした.

第3章(研究課題1)では、小学校教師の体育授業へのコミットメントを促す要因について、大学での体育科の長期研修に参加した小学校教師12名に対するインタビュー・データの質的分析(M-GTA,木下,2003)により検討した。その結果、同僚教師の支援や職場での役割期待、研修への参加機会などの職場環境や学習機会に加え、体育授業観や教師観などの体育授業に対する信念、児童の観察や指導の手応えの実感などの授業実践の省察といった多様な要因群の存在ならびにそれらが相互に影響し合うことで体育授業へのコミットメントが促されていることが示唆された。これらの結果から、小学校教師が体育授業に対して積極的に取り組むコミットメントを促すための要因を検討し、環境的要因、個人的要因、省察に関わる要因が相互に関連する成長のプロセスを理論モデルとして示した。

第4章(研究課題2)では、研究課題1と同対象者に対するインタビュー調査の質的分析により、体育授業へのコミットメントが阻害される要因を検討した。その結果、小学校教師の体育授業へのコミットメントが阻害される要因として、体育指導に関する研修機会の少なさや日常の職務の多忙感、同僚教師の体育授業観などの環境的要因に加え、教員養成課程での学びの不十分さ、体育指導への苦手意識や体育授業観の不明確さといった個人的要因が影響することを示した。また、これらの要因は複合的に影響し合っており、体育授業へのコミットメントが停滞する悪循環に陥る様相を理論モデルとして示した。さらに、研究課題1および研究課題2の結果から、教師の教育的価値の認識が体育授業に対するコミットメントを促す一方、同僚教師の体育授業観との差異が、積極的に体育授業に取り組もうとする教師を阻害してしまうことを示した。つまり、小学校教師の体育授業の教育的価値を重視する授業観の形成という視点に立った支援の必要性が示唆された。加えて、教師の職務の多忙さや指導の不安感などの阻害要因を踏まえつつ、学校の協働的、意図的な支援を通したコミットメントの変容過程を明らかにする必要性が示唆された。

第5章(研究課題3)では、体育授業に対するコミットメントの変容過程とそれに影響を与える要因を明らかにするため、体育科の校内授業研究を継続する小学校に配置された新人教師3名を対象に4年間の参与観察とインタビューによる調査を行った。研究課題3では、研究課題1および研究課題2までの結果を踏まえた上で、次の3つの分析観点を設定した:1)校内授業研究を通した新人教師の体育授業に対するコミットメントの変容の過程、2)新人教師の授業研究および体育指導に関わる不安や負担感の実態と変容の過程、3)新人教師の体育授業へのコミットメントに関わる校内授業研究の特徴。これらの分析観点について、質的データを継続的比較法(メリアム、2004;佐藤、2008)により分析した。その結

果,校内授業研究への取り組みを通した教師の体育授業に対するコミットメントの変容の 過程は、体育授業観を共有する校内授業研究の体制と授業の協働的な省察により支えられ ていたことを確認することができた。また、授業研究および体育指導に関する新人教師の不 安や負担感が存在したものの、インフォーマルな協働やモデリング、教材、教具の共有など を通してそれらが軽減されていく過程が確認できた。さらに、体育授業へのコミットメント の醸成を支える校内授業研究の特徴として、体育科の授業研究に対する当事者意識の共有 や多様な協働関係、継続した教科の研究といった要因が機能していることが示唆された。

第6章では、研究課題1および研究課題2、研究課題3の結果を通した本研究の総合的な考察を行った。研究課題3の対象校では、研究課題1でみられたコミットメントを促す環境的要因が校内授業研究に組み込まれていると同時に、研究課題2でみられた阻害要因を乗り越えレジリエンスを発揮する支援が機能していた。また、我が国の小学校の教師文化に関する特徴として、同僚教師の役割期待や同調的風土による影響が大きいこと、体育科の特徴として、指導内容や教育的価値が軽視されやすい一方、児童の反応によるやりがいや価値の認識が得られやすいことを指摘した。さらに、成人学習理論や授業研究に関する先行研究では自己主導的な学習が重視されていたのに対し、本研究では、外発的、環境的な契機からコミットメントが促され、その結果、自己主導的な授業改善への取り組みにつながるような支援の重要性を示唆した。

終章では、本研究で得られた研究結果の総括と今後の検討課題について示した。本研究の成果として、1) 小学校教師の体育授業に対するコミットメントに影響する要因を明らかにし、これらの要因が相互に関係するプロセスを理論モデル化したこと、2) 校内授業研究が新人教師の体育指導の困難を乗り越えるレジリエンスを促す機能を示唆したこと、3) 体育授業へのコミットメントにおいて教師の自己主導的な学びによる促進は難しく、役割期待や環境的な契機の重要性を示唆したこと、4) 全校的に特定教科の校内授業研究に取り組む意義を示唆したことが挙げられる。これらの研究成果を通して、小学校教師の体育授業に対するコミットメントという新しい概念に関わる要因を理論モデル化したこと、校内授業研究を通したコミットメントの変容プロセスを明らかにしたことに本研究の意義がある。もっとも、本研究は目的的サンプリングによる少数の特徴的な事例を対象としている。そのため、体育科の研究校に転任してくる教師や一般的な学校に転出した教師の体育授業へのコミットメントや取り組みの過程など多様な事例から本研究の成果との共通性や違いを見出していくことが今後求められるといえる。